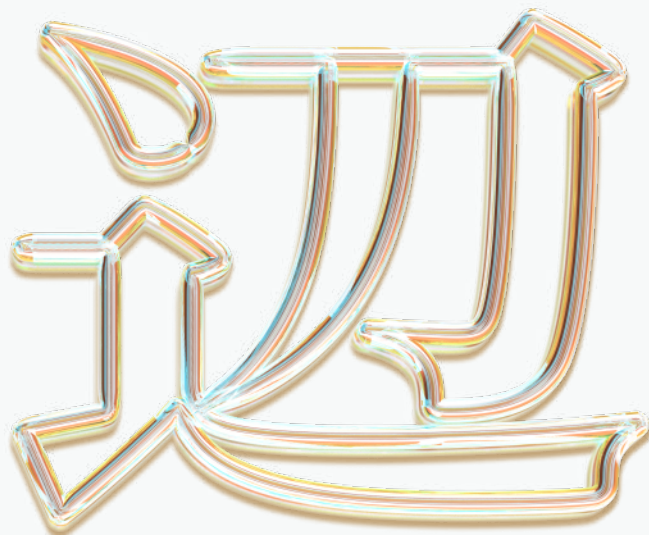




Ambient, Environment,
Circumstances

-The Topography of Contemporary Art-



2025.4.26 SAT—7.21 MON

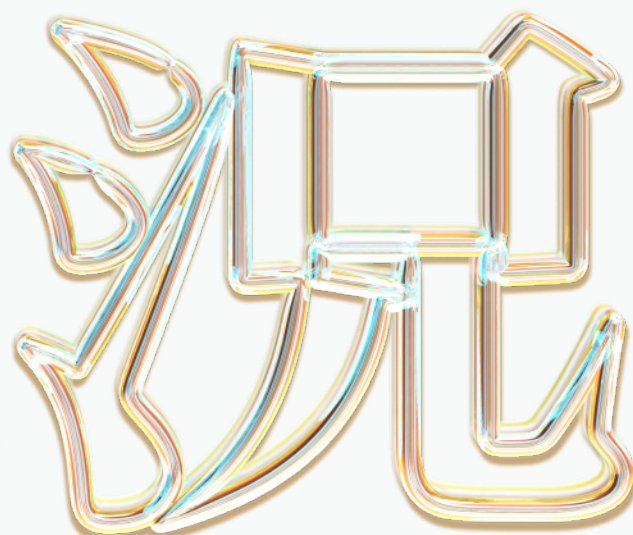
Curated by Keita Saito
Co-Curated by Takanori Matsuyama,
Li Jingwen, Yoko Negami



Kaori Endo, Omyo Cho, Kim Riyo,
Daichi Kukita, Sou Suzuki,
Soe Yu Nwe, MADARA MANJI,
Muhamad Gerly, Zheng Tianyi



下瀬美術館
SIMOSE
ART MUSEUM



開館時間：9:30—17:00(入場は16:30まで) / 休館日：月曜日(祝日の場合は開館)

観覧料：一般 2000円(1800円)、大竹市民 1500円、高校生・大学生 1000円(800円)

中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体(要予約)の料金

周辺・開発・状況

- 現代美術の事情と地勢 -

Ambient, Environment,
Circumstances

-The Topography of Contemporary Art-

2025.4.26 SAT—7.21 MON

東アジアにルーツを持つ9組のアーティストが
“世界で最も美しい美術館”で初となる現代美術展を開催します

本展は2024年の〈ベルサイユ賞〉(ユネスコ本部創設の建築賞)受賞を記念した特別企画展で、当館にとって初の現代美術展となります。チーフキュレーターに美術家の齋藤恵汰を迎え、コキュレーターとして松山孝法、李静文、根上陽子が参加いたします。また東アジアにルーツを持つアーティストが参加する国際展として日本からは遠藤薫、金理有、久木田大地、鈴木操、MADARA MANJI、韓国からオミョウ・チョウ(Omyo Cho)、中国・香港からジェン・テンイ(鄭天依)、インドネシアからムハマド・ゲルリ(Muhamad Gerly)、ミャンマーからソー・ユ・ノウエ(Soe Yu Nwe)が参加いたします。アーティスト9組とキュレーター4名はそれぞれ1980年〜2000年生まれの子世代作家・キュレーターで、海外拠点の4名は日本の美術館では初となる作品発表の機会となります。

今回、チーフキュレーターの齋藤は、下瀬美術館と周辺環境の一体化から思考を開始し、造船開発の技術を使った可動展示室や、美術館の向かいに日本屈指の観光地である宮島を擁する立地状況を踏まえ、それらに回答していく展示を構想しました。9名のアーティストが下瀬美術館というフロンティアを目の前にして、そこから生じる出来事や現場、状況とどのように対峙したのか、その成果をご高覧ください。

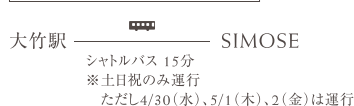
公共交通機関でのアクセス



車でのアクセス



シャトルバスでのアクセス



主要観光地からのアクセス

- ◎宮島:フェリーで10分の後、車で20分
または、JRを利用し玖波駅まで10分の後、こいこいバスにて20分
- ◎岩国錦帯橋:車で25分
- ◎原爆ドーム / 平和記念公園:車で35分(一部有料道路)または
路面電車・JRを利用し玖波駅まで40分の後、こいこいバスにて20分

下瀬美術館
SIMOSE
ART MUSEUM



鄭天依《We No Longer Remember How We Got Here》2022

アーティスト:遠藤薫、オミョウ・チョウ、金理有、久木田大地、鈴木操、ソー・ユ・ノウエ、MADARA MANJI、ムハマド・ゲルリ、鄭天依

主催:一般財団法人下瀬美術館、中国新聞社
後援:広島県教育委員会、大竹市教育委員会、中国放送、広島テレビ、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、FMはつかいち76.1MHz

企画:齋藤恵汰 / 共同企画:松山孝法、李静文、根上陽子
担当学芸員:山本和毅 / デザイン:八木幣二郎 / PR&SNS:倉田佳子

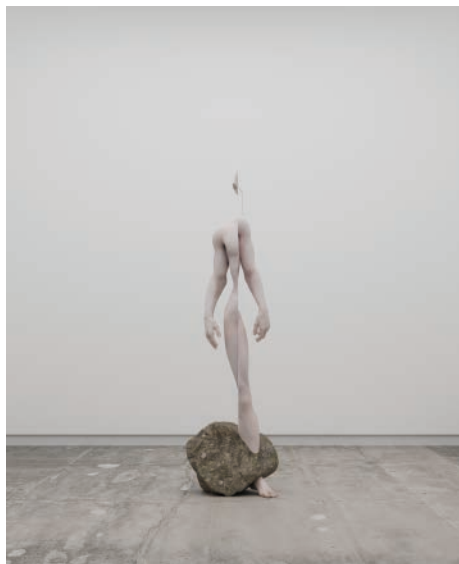
企画制作:BUCCHIGIRI Production
運営協力:Living Together Co.、TAV Gallery
協力:大竹手すき和紙保存会、横川エリアマネジメント連絡協議会、
よこげい実行委員会(横川まちの芸術祭)、YCA(横川創作者会議)、
滋賀県立陶芸の森、co・iki、有限会社三沢管財、ミナガルテン

Participating Artist: Kaori Endo, Omyo Cho, Kim Riyoo, Daichi Kukita, Sou Suzuki,
Soe Yu Nwe, MADARA MANJI, Muhamad Gerly, Zheng Tianyi

Organized by Simose Art Museum, Chugoku Shimbun
Supported by Hiroshima Prefecture Board of Education,
Ōtake city Board of Education, RCC BROADCASTING CO., LTD.,
Hiroshima Television Corporation, Hiroshima Home Television,
Shinhiroshima Telecasting, FM HATSUKAICHI 76.1MHz

Chief Curator: Keita Saito / Co-curator: Takanori Matsuyama, Li Jingwen,
Yoko Negami / Curator of Simose Art Museum: Kazuki Yamamoto
Graphic Designer: Heijiro Yagi / PR&SNS Manager: Yoshiko Kurata

Produced by: BUCCHIGIRI Production / Cooperated by: Living Together Co.,
TAV Gallery / Special Support: Otake Tesuki Washi Preservation Association,
Yokogawa Area Management Liaison Council, Yokogawa Art Festival,
Yokogawa Creators Association, The Shigaraki Ceramic Cultural Park, co・iki,
Misawa Property Management, Minagarten



鈴木操《靈性》2025

主催=一般財団法人下瀬美術館 / 中国新聞社
〒739-0622 広島県大竹市晴海二丁目10-50 Tel=0827-94-4000 Web=www.simose-museum.jp